

住民協働事業審査会 講評

NO	団体名／事業名	関係課	講評
1	地域情報デジタル化普及実行委員会/ 地域情報サイトの運用と活用による地域コミュニティ活性化事業	地域づくり課	・課題意識は明確だが、何をどのように進めていくのか、もっと計画立てて展開していくことが必要。 ・地域に即した活動の洗い出しをしっかりと行った上で、HPやLINEなどのメッセージアプリの使い方、その目的や使用場面など、ニーズに見合ったコンテンツ作成を目指すが良い。 ・地域の住民同士のつながりを作りコミュニティを再興するという目的は良く、必要なことなので継続して欲しい。 ・発信する内容について、暮らしに根ざしたものなど興味を持てるものを入れられるよう、さらに周りの人の声や協力が得られるとよいと思う。 ・一朝一夕で仕上がるものではないが、それだけに補助金を当てにしないで継続できる仕組みづくりなど、根本的な部分を再考して欲しい。 ・地域のことを思い地域コミュニティの活性化のためにこの事業を立ち上げたことは評価できる。このような地域情報サイトの運用は、新興住宅団地のようなまとまった地区では有効だったかもしれないが、昔からある農村部と新たに加わった住宅地のように価値観の異なる方々が分散して居住する増穂地区では、地区として一つにまとまるということが困難であるように感じた。（増穂地区という行政区割に対する意識が今は希薄になっている）。それでもやり遂げるためには、区・自治会長を説得し、その意志をひとつにまとめ上げることが第一であり、区長会長である吉田代表ならそこからだと思う。うまくできない区・自治会には自ら出向きシステム立ち上げに協力するなどしてデジタル化を推進すると良い。 ・区・自治会の加入率を上げることは時世困難になってきている。高齢化が進み、区に入ると色々な役割分担があり、抜ける選択をする方も増えつつある。スマホは情報化社会で生きていくには必要不可欠ではあるが、高齢者にとってはハードルが高い。スマホ教室もありがたいが、車に乗れない人も多いため、集めるのではなく集まっているところに出向いていく方策をとるなど工夫が必要である。（社協で行っている集会や地区のサロンなど） ・中学校との連携は、当初から心配していたが、安易に捉えすぎていた感が否めない。学校では、指導要領に則って学習を進めているので、外から新たなものを入れる余地がない。 ・スマホなど、デジタルに強くなるのも大切ではあるが、地域で暮らす人々は、直接会う、話す、一緒に活動するなど、人と人との直接的なつながりを尊重することが何よりも大事で心を動かすことができるものと考ええる。スマホなどのデジタル化と同時に直接の親交を深める努力を。今後も地道に継続して貰うことを切に願う。